

| | |
|---------------|---|
| Title | 語文 第7輯 編輯後記/投稿規定/奥付 |
| Author(s) | |
| Citation | 語文. 7 |
| Issue Date | 1952-11-10 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/68417 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編輯後記

原稿が印刷所へまはらうといふころに議會の解散にあつたので、発行の遅延を氣づかつてゐたが、その影響は少かつたやうである。公明選挙の余慶といふべきであらうか。しかし予定してゐた原稿が間に合はなかつたり、頁数の按配がつかなくなつたりしたために、前号で予告した題目について変更しなければならなくなるなど、不手際のこと少くなかつたことをおわびしておきたいと思ふ。二回に分けられる筈であつた釜田氏の論考を一度にまとめて掲載することになったのもそのためである。雑誌全体の体裁としては、いかにも不安定な感じをまぬがれないが、しかし却つてこれを有効に扱つて下さる方のあることを祈つてゐる。

本輯は御覽のとおりのものとなつた。一般として、もっと重厚で迫力のある編集をといふ批評もおそらくあると思ふし、われわれとて満足してゐるわけではない。厳めしい題目や、煩瑣な言ひまはしを研究論文

的であると思がちな傾向は、われわれの分野にもなくなつたとはいへないし、さういふいはゆる巻頭論文的な愚しさを除いてゆかうとするのが、編集態度の一つでもあるが、しかし一読してさほどの抵抗の感じられないのも、同様にわれわれの場合いかゞであらう。

有益な研究は寄せられつゝあるけれども、それでもなほ、思ふまゝの編集がいつも、余裕をもつて出来るやうになるまでにはなかなかである。爽涼の季節に入つて、一層の努力を期してはゐるが、とりわけ會員の方々の御援助をお願い申し上げたいと思ふ。

高倉教授の寄せられた「中国の国語教育」の玉稿は高熱入院の御病床に、強いて本誌のため口述されたものであることを記し、御全快の日の早からんことを諸賢と共に祈る次第である。

(田中)

投稿規定

- 直接購読者は投稿することが出来る。
- 原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百語原稿用紙二十枚以内とする。
- 原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
- 原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
- 採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。
- 一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。
- ❖雑誌の寄贈・交換について
 - 雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原大阪大学文学部国文学研究室宛に願いたい。
- ❖購読について
 - 購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい)
- 一部 四十円 送料 六円
- 一年分(四回分) 百六十円(送料共)
- 五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

¥ 40

發行所 大阪市南區横堀7丁目19 邦進社 振替大阪123135番 電話船場1990
編輯者 大阪府豊中市柴原 大阪大學文學部國文・研究室 代表 小島吉雄